

第 35 回生物学技術研究会への参加報告

技術センター 塩路 恒生

1. はじめに (目的)

生物学の研究に携わる大学及び研究機関等の技術職員が日常関わっている研究支援活動における成果や問題点の発表を聴講し、技術の向上、交流及び情報交換を図ること、さらには、自らの業務の成果を発表することを目的としてオンサイトにて参加した。

2. 期間・場所

期間：令和 6 年 2 月 15～16 日 2 日間

場所：オンサイト及びオンライン開催

3. 参加者等

受講者：全国の技術系職員 約 180 名

4. 研修内容

- 1 日目 ・研修講演「AI が拓く生命科学の探究と展望」
超階層生物学センター AI 解析室 室長 渡辺 英治 准教授
- ・ポスター発表 34 件
- 2 日目 ・一般口演 8 件
- ・奨励研究採択課題技術シンポジウム 5 件

5. まとめと感想

今回は、4 年ぶりにオンサイトでの開催となった。実際には、オンラインとのハイブリット開催であったが、オンサイトにおいて、コロナ前と遜色のない参加数であった。一日目は、基調講演の後、オンサイト限定で、ポスター発表があった。私は、「東広島植物園における学生支援」という題目で、発表を行った。他大学の技術職員からも私の発表内容について賛同をいただくことが出来た。両日の発表では、専門的な研究発表内容が多く見受けられたが、中には技術職員組織や指導のあり方についての発表もあり、非常に参考になる部分が多かった。数年ぶりに懇親会も開催され、多くの情報を得るとともに親睦を深めることが出来た。2 日目の研修会終了後、施設見学があり、私は IBBP センターを見学した。IBBP センターとは、液体窒素により、研究者の生物遺伝資源のバックアップを行っているセンターです。震度 7 にも耐えうる耐震構造の建物内では、植物のほか、マウスや家畜など多様なサンプルが保管されていて、非常に興味深い見学であった。今回得られた知識と人員交流を今後の業務に生かしていければと考えます。